

2025年度 学校法人とくのう学園 黒田幼稚園 財務状況・事業報告

1. 財務状況

【資金収支計算書】

(単位:円)

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	8,538,863
手数料収入	285,000
寄付金収入	1,808,000
補助金収入	158,454,702
資産売却収入	273,218,200
付随事業・収益事業収入	23,377,845
受取利息・配当金収入	21,824,648
雑収入	3,815,373
借入金等収入	0
前受金収入	0
その他の収入	31,517,944
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 11,865,646
前年度繰越支払資金	71,311,348
収入の部合計	582,286,277
支出の部	
人件費支出	130,178,964
経費支出	54,685,664
借入金等利息支出	0
施設関係支出	7,007,000
設備関係支出	4,351,500
資産運用支出	137,479,112
その他の支出	15,630,413
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 2,835,519
翌年度繰越支払資金	235,789,143
支出の部合計	582,286,277

【事業活動収支計算書】

(単位:円)

科 目	決 算 額		
教育活動収入	学生生徒等納付金・手数料	8,823,863	
	寄付金	1,808,000	
	経常費等補助金	156,754,702	
	付随事業収入	23,377,845	
	雑収入	3,815,373	
	教育活動収入計	194,579,783	
	事業活動支出	人件費	130,195,787
		経費	75,071,906
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	205,267,693
	教育活動収支差額	△ 10,687,910	
教育活動外収入	受取利息・配当金	21,824,648	
	その他の教育活動外収入	0	
	教育活動外収入計	21,824,648	
	教育活動外支出	その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計		0	
教育活動外収支差額	21,824,648		
経常収支差額	11,136,738		
特別収入	資産売却差額	57,351,646	
	その他の特別収入	1,700,000	
	特別収入計	59,051,646	
	特別支出	資産処分差額	4,183,673
その他の特別支出		5,285,201	
特別支出計		9,468,874	
特別収支差額	49,582,772		
基本金組入前当年度収支差額	60,719,510		
基本金組入額合計	0		
当年度収支差額	60,719,510		
前年度繰越収支差額	62,980,431		
基本金取崩額	9,683,144		
翌年度繰越収支差額	133,383,085		
事業活動収入計	275,456,077		
事業活動支出計	214,736,567		

【貸借対照表】

(単位:円)

科 目	金 額
資産の部	
固定資産	847,616,977
流動資産	247,654,789
資産の部合計	1,095,271,766
負債の部	
固定負債	1,731,220
流動負債	8,337,486
負債の部合計	10,068,706
基本金	
第1号基本金	937,819,975
第4号基本金	14,000,000
基本金の部合計	951,819,975
繰越収支差額	
翌年度繰越収支差額	133,383,085
純資産の部合計	1,085,203,060
負債及び純資産の部合計	1,095,271,766

【財産目録】

(単位:円)

科 目	金 額
基本財産計	524,524,723
運用財産計	570,747,043
資産の部合計	1,095,271,766
固定負債計	1,731,220
流動負債計	8,337,486
負債の部合計	10,068,706
差引純資産	1,085,203,060

2025年度 主要事業(計画・実績) 報告書

1. 園の事業(行事)

事業(行事)名	日程	目的・目標	実 績
入園式 [ホール]	4月9日	・入園の喜びと園生活に対する期待を持たせる。	・温かい雰囲気の中で式を行い、子どもも保護者も入園の喜びを感じることができた。 ・年中からの入園者も参加。年少さんと同様に迎えられることに温かさを感じた。
年長親子遠足(富士サファリパーク) 雨天決行	4月25日	・多くの園児や保護者が交流し、仲間意識を持つ。 ・親子で楽しい一日を過ごすと共に、積極的に多くの父母・園児同士の交わりをもつ。	・大型バス、各クラス1台で実施。親子で楽しい時間を過ごすだけでなく、保護者同士の交わりもあり、仲間意識が高まった。
防災引き渡し訓練	5月2日	・保護者に有事に備え徒歩で迎えに来てもらうことにより、自宅の距離を待ち時間で確認する。 ・降園時には、危険個所を保護者と確認する。	・雨天のため、実施できなかった。各自で有事に備えた避難経路等を確認するように保護者に求めた。 ・9月5日の台風15号の対応 バスの運行中止→降園時、バス通園の保護者にお迎えの時刻の目安を指定。車での送迎との時間をずらして対応。混乱なく引渡ができた。この対応を今後に生かす。
年中親子遠足 晴天 [もちや] 雨天 [秋に延期]	5月16日	・多くの園児や保護者が交流し、仲間意識を持つ。 ・親子で楽しい一日を過ごすと共に積極的に多くの父母・園児同士の交わりを持つ。	・保護者が各自車での現地集合であった。自車を持たない家庭への配慮を丁寧に行った。(結果 保護者が車を用意し、問題なく参加できた。) ・他園と実施日が重なり、活動場所の調整を図った。目的の達成は見られた。
年少親子遠足 [まかいの牧場] 雨天 [秋に延期]	5月23日	・多くの園児や保護者が交流し、仲間意識を持つ。 ・たくさんの動物を見たり、触れたりしながら、親子で楽しい一日を過ごすと共に、積極的に多くの父母・園児同士の交わりを持つ。	・各自車で現地集合であった。駐車場から現地までの案内を職員が丁寧に、安全に配慮した対応を行った。目的の達成は見られた。
3分の1参観日 〔保育参観・給食参観〕	6月12日 6月16日 6月19日	・集団生活における園児の実態を知る。 ・給食の準備のしかた、給食のとり方を見ることにより子どもの実態を把握し、家庭での食事の場で指導して事後に活かしてもらう。 ・園と家庭とで、教育方針の共通理解を図る。	・3つに分けることで両親や祖父母も含め複数人で参観できた。教室に入っても圧迫感も少なく、ゆとりをもって参観できた。給食まで参観する保護者が多くいた。「子どもの様子、学級の様子を見て安心しました」と嬉しそうな保護者の感想を得られた。
水遊び開始 [デッキ下プール]	6月23日 9月5日	・水着に着替えダイナミックに水遊びを楽しむ。 ・身近な素材を使って、夏ならではの遊びを楽しむ。 ・水に親しむとともに、その危険にも気づく。	・備え付けプールでの園児死亡事故(北海道)を受けて、より安全配慮の徹底を図った。担任と副担任が園児への指導を行い、安全面を監視する職員を1名配置した。年長・年中の園児の着替えについても配慮した。年少は徐々に慣らし、満3歳児教室は簡易プールでの水遊びを楽しんだ。
個人面談	6月30日 7月1日 7月3日 7月4日	・1学期の集団生活における園児の実態を知る。 ・園と家庭とで、教育方針の共通理解を図る。 ・保護者の思いを聞く。	・一昨年度より早い日程で計画をした。3か月間の子どもの様子を伝えた。保護者からも体調面、心理面、特性に関わることについての相談を受けた。
お楽しみの日(年長児のみ) 〔保育室他〕	7月11日	※各クラスで計画したお楽しみの日を実施し、クラスの絆を深め思い出に残る一日にする。 ・集団生活を通して ①自立心を育てる。②友達意識を育てる。③けじめをつける。	・各クラスで計画したことを実行していく過程でみんなできりあげていく楽しさや友だちのことを思いやる心情を育てることができた。
夏祭り 〔園内〕	7月19日	※みんなで計画したお祭りを実行し友達と楽しむ ・友達と楽しみながらふれあいを深める ・お祭りを自ら楽しむと同時に社会規範を身につける	・園が主となって計画、準備を行っている。当日協力を得られる父親の数も減ってきている。今後、持続可能な夏祭りのあり方について検討していく必要がある。 ・卒園児の高校生、中学生が3名当日の運営に手伝いに参加してくれた。

各種研修	7・8月	・教員のスキルアップ	・動画配信研修を積極的に受講し、自身のスキルアップに務めた。 ・5月6日には危機管理研修として、心肺蘇生法、異物除去法、熱中症防止対策について外部指導者を招いたり、事例研究をしたりして危機対応能力の向上と組織としての対応の共通理解を図った。 ・園少連携に向けて、改めて「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を見直し、「本園で育てたい姿」を話し合い、共有化する研修を重ねた。継承と創造をコンセプトにした研修を進めたことで、黒田幼稚園のよさを再確認するとともに、指導要領に添い、近隣の学校の教育につながる「目指す姿」を立てることができた。令和8年度からPDCAサイクルをまわし、取り組んでいきたい。
保育自由参観	9月4.8.11日 9月24日(満3) 9月25日(満3)	・集団生活における園児の実態を知る。 ・園と家庭とで、教育方針の共通理解を図る。	・いつも通りの園での生活と活動を参観していただいた。保育中の子どもの様子のありのままを伝えることができた。 ・学校関係者評価に関わる方にも参観を依頼し、園の雰囲気を実感していただいた。
運動会(全園) [運動場]	10月10日	※運動会は、日常保育の発表形式を主としているが、園児の発達の特性を知るよい機会であるので、親子遊戯を取り入れ親子共々楽しみながら、園児に対する理解を深めようとするものである。 ・約束を守り、友達と力を合わせて最後まで頑張る。	・友達と一緒に一つの表現運動を創る過程で協同性を育む場となった。 ・熱中症対策と安全面、小学校へのつながり等を考慮し、年長の表現運動の技の数とピラミッドの高さを低くした。練習時数が減り、安全面への配慮を高めた。どの学年も表現運動の構成がよく、子どもの懸命な姿が保護者や在園児の感動を生んだ。 ・来年度の目標と種目は今年度を考慮し、職員で検討する。
さつま芋ほり [園の畑]	10月30日	・土を掘りおこし、いためないように収穫し、秋の自然の中で芋掘りの楽しさを十分味わう。 ・自然の不思議さ、尊さを感じ、収穫の喜びを味わう。	・今年度より園内の畑でさつま芋を栽培し、年長園児が収穫を楽しみ、年少・年中はその様子を見学し、今後の楽しみにつなげた。十分な収穫量で、全園児が焼き芋を食し、芋版で遊び、年長はスイートポテトを調理し、食べる事ができた。
リズム発表会 [ホール]	12月4日 12月5日	※1. 表現力を身につけるために、日常の中で行なっている劇や音楽遊びを発表する。 2. 舞台の上で、表現することにより、自信を持たせる。 ・力一杯、体で表現する。 ・音楽に親しみ、楽しく表現する。 ・協調性を身につける。 ・上手、下手よりも一生懸命努力することに重点をおく。	・上手、下手よりも一生懸命に練習し、友達と音や遊戯を合わせて表現することで味わえる音楽の楽しさを体感している様子が見られた。 ・教師が、目標の達成に向けて従来の型にはまらず、柔軟に方法を変え、工夫することで子どもが達成感につながっていた。
マラソンごっこ [運動場]	12月8日～12日 1月14日～21日	・楽しく走り持久力を養う。 ・苦しくても最後まであきらめない気持ちを持つ。	・目標を見直し、「かけっこ」より長い距離を走ることの楽しさを味わうことを目標にした。時間を年長が2分間とし、以下30秒ごと短時間に設定した。これは、小学校低学年の「長く走る運動」の目安が2～3分と学習指導要領に定められていることをもとに設定した。子どもたちは年長になるにしたがって、自分のペースで時間いっぱい走り切り、長く走ることの気持ちよさとペースをつかむ姿が見られた。
希望面談	12月12日 12月15日 12月16日	・集団生活における園児の実態を知る。 ・園と家庭とで、教育方針の共通理解を図る。 ・保護者の思いを聞く。	・各学級約7割の保護者が面談を希望し、子どもの様子の共通理解を図ることができ、3学期の保育につなげる話し合いがなされた。面談の必要性は高いと考える。
もちつき [運動場]	12月18日	・おもちができるまでの過程を知り、自分で丸める事により作る喜びと感触を楽しむ。 ・日本の伝統文化について学び、正月の意味を知る。	・保護者のもちつき実行委員が計画から準備、実行まで手際よく進めてくれた。子どもたちは当日までに鏡餅に込められた思いや正月の意味を学び、餅の感触を楽しみながら鏡餅を仕上げた。
3分の1参観日 [マラソンごっこ参観]	1月 15.16.19日	・子どもの発達に合わせた体力づくりの様子を保護者が見ることで集団の中での個の実態を知る機会にする。	・3分の1参観日と合わせたので、自分のペースで走る子どもの姿を応援する保護者の姿が見られた。子どもの発達段階に合わせた取組がなされ、それぞれの学年で「長い距離の走りを楽しむ」目標の達成が見られた。

<p>ごっこ遊び週間 [保育室]</p>	<p>2月9日 5 2月13日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学年に合う形で参加をし、経験を積むことにより、自ら考え行動する力を養う ・年少…他学年とかかわり合いながらごっこ遊びと楽しむ。 ・年中…①廃品を利用しながら工夫し創り上げていく。 ②友達と協力し合いながらごっこ遊びを盛り上げていく。 ・年長…①子どもの意見を中心に、ごっこ遊びについて話し合い、計画を立て取り組んでいく。 ②友達と助け合い、一人ひとりが役になりきる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年中、年長は目標達成に向けた取組がなされる中で協同性が培われる姿が見られた。子どもの考えを拾い上げ、その考えを学級の人々と共有して、ゴールのイメージが創られていく過程を大切にしていることで、子どものわくわく感が高まっていった。4日間あるごっこ遊びでの期間で横割り活動、縦割り活動、全体活動と活動の幅を広げるにつれて、子どもたちも活動の幅が広がっていった。今年度は満3歳児も参加した。グループごと先生が付き添い、上級の園児との関わりを楽しんだ。年少園児も年長児のお世話係りの園児との交流により、楽しむことができた。 ・感染症流行の時期だったので、参加が十分にできなかった園児に対して代替の活動の場を設けた。
<p>卒園式（年長児のみ） [ホール]</p>	<p>3月18日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園児一人ひとりに幼稚園の全課程を修了したことを認め、次の飛躍のための門出を祝う。 ・卒園児には、園生活を通じ、園、家庭やまわりの人々に対し感謝すると共に、一人ひとりに喜びを味わわせ、小学校への希望を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは卒園にむけて気持ちを徐々に高めていくように式の練習を行った。一人一人が修了証書を堂々とした態度で受け取るとともに、保護者に向けて感謝のメッセージを伝えた。卒園とともに小学校という次のステージに向かうことをコンセプトにしていた計画だったので、園への別れの悲しみと小学校に向かう希望をもって卒園することができた。